

2020年 令和2年



新年あけましておめでとうございます。

第114号	
発行所	酒井重工業株式会社
住所	東京都港区芝大門1-4-8
電話	03-3434-3401
FAX	03-3434-3419
発行人	水内 健一

昨年は、米中貿易摩擦の長期化でアジア新興国を中心に世界経済が減速する中、国内および欧米先進国経済は、何とか景気を維持致しました。また、テクノロジー革命に伴う産業構造変化が進む中、i-construction への機運が益々高まり、当社においても次世代技術の開発に力を入れて参りました。転圧管理システムによる品質向上、自律走行ローラによる生産性向上、そして緊急ブレーキによる安全性向上を「スマート・コンパクション・トライアングル」として推進しています。



さて、当社を取り巻く事業環境は、国内では政府の国土強靱化対策と新たな総合経済対策を受け、今年も底堅い市場が期待されます。一方、海外においては、世界経済情勢に一服感が見られるものの、引き続き突然の激動リスクが残るものと覚悟をしているところです。

また、自然の摂理から乖離した文明追及の結果として、甚大な自然災害や深刻な社会不安が世界中に広がりつつあります。世界は、政治と経済が分離された極めて自由なグローバル市場経済から、政治的意志や自然摂理の制約の中で活動する新たな形の市場経済へと移行しているのだと感じます。

このような世界情勢の大きな潮流や技術革新の著しい事業環境下、当社はこの変化を前向き捉えて迅速に適応し、新たな成長のチャンスを掴むべく社業に邁進して参ります。

年頭にあたり、本年も変わらぬご指導とご鞭撻を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

酒井重工業株式会社 代表取締役 酒井一郎



明けましておめでとうございます。

今年は、待ちに待った東京オリンピック・パラリンピックが行われます。私たちの業界も会場の建設、インフラ整備など開催に向け貢献できたのではないのでしょうか。開催までもう少しです、聖火リレーなど全国各地でいろいろなイベントが行われます。これからもますます盛り上がって楽しみたいと思います。

紙面を通して新製品紹介、展示会の出展案内や酒井重工業の活動報告を発信してまいり少しでも皆様のお役にたてるよう努力をしてまいります。

サカイニュース発行人 水内健一 および 編集委員一同

～新製品紹介～

R2-4 Guardman

2018年10月、酒井重工業は道路機械業界では初となる緊急ブレーキ装置(後進用)搭載タイヤローラ TZ704Guardman を発売いたしました。そして2019年10月、新たな緊急ブレーキ装置(後進用)搭載車両として R2-4Guardman の販売を開始いたしました。

1) 施工性はそのままに“まさか・うっかり”を抑制

R2-4Guardman は TZ704Guardman 同様にトリプルセーフティー(対象物を検知した際に緊急ブレーキを作動させる・運転席にディスプレイを搭載し後方の監視が可能・音声と警告音で運転者や周囲の作業者に注意を促す)が搭載されており、運転者の“まさか・うっかり”などのヒューマンエラー防止を補助します。物体を検知した際には、車両の速度が速い場合には遠くの位置から、車両の速度が遅い場合には近い位置から緊急ブレーキを作動させることで、施工の妨げにならないよう設計されています。

また、検知できる幅を転圧幅にしていますので、路肩や壁際に対しても緊急ブレーキ装置を作動させたまま施工を行うことが可能です。

ストックヤードやトレーラへの積み込みの際など緊急ブレーキ装置が不要の場合には、手動で緊急ブレーキ装置を解除することが可能ですので使いづらくありません。

2) 日本道路会議で優秀賞を受賞

2019年11月7・8日に行われた第33回日本道路会議において「緊急ブレーキ装置(後進用)搭載タイヤローラの開発」という題目で口頭発表を行い、優秀賞を受賞いたしました。



～新製品紹介～

Compaction Meister



SAKAI 転圧管理システムを大幅刷新し、Compaction Meister (コンパクションマイスター) として発売しました。

1) 締固め品質の向上

CCV (加速度応答法) を標準搭載し、CCV による締固め管理が可能です。

Compaction Meister を使用することにより、室内試験や試験施工で得られる結果と共に CCV という管理基準を設けることができます。

Compaction Meister は、ベストな管理基準値をご提案できるシステムとなっております。

2) 操作性の向上

誰でも簡単に行えるように、今回は必要な設定項目をギュギュッとまとめて、わかりやすい画面構成にしました。

各種設定項目も一工夫し、これまで面倒だったアンテナ取付寸法の設定は、対象機種ならばお使いの機種名を選択するだけです。

3) 施工管理の改善

施工現場での各種データは、ディスプレイに表示されるだけでなく、離れた現場事務所や管理事務所でも施工進捗が確認できます。クラウドネットワークサービスの利点を生かしたサービスをご提供できます。

また、別売りの温度計 (SRT - 300) を接続すれば温度管理にも利用できます。

土工だけでなく舗装工へも対応できる Compaction Meister は、どなたでも扱いやすく、見えなかった品質を見えるようにし施工管理を簡単に行えます。容易な操作で高い品質管理を目指し、これからもバージョンアップしていきます。

埼玉県久喜市のデモンストレーションフィールドでお待ちしております。お近くの当社営業所へお問い合わせください。



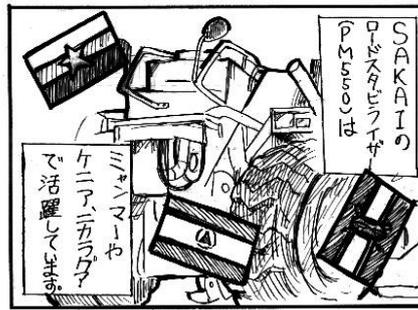
専用動画へアクセスできます。
チャンネル内で「転圧管理」を検索して下さい。

～海外におけるスタビライザー工法の技術移転～

当社では、アフリカをはじめ発展途上国の道路環境を改善し、社会サービス体制の地域間格差を解消すべく、ロードスタビライザーを使用したリサイクル工法の技術移転を行っております。機械（ロードスタビライザー）を導入するだけではなく、施工技術などの技術移転を図る事で発展途上国の人々が自分達の力で道路環境を改善できるようになります。

この活動の一部は
経団連 SDG s サイト

(www.keidanrensdgs.com/home-jp) でも見る事が出来ます。企業名「酒井重工業」で検索してみてください。弊社の社是に「国土開発という社会事業に貢献する」という一文があります。我々は道路づくりという国土開発を通じ、未来への発展に繋がる活動を今後も続けていきます。



SAKAI が 行う社会貢献

未来を創る
子供達の笑顔が
一番の社会貢献です。



ニカラガアでの ODA の様子

～祝 インドネシアに新工場建設！～

当社のインドネシアにおける製造拠点2工場を移転統合させ、新工場を立ち上げし記念式典を催しました。

新工場は、最先端の工場レイアウトと最新設備を導入し生産効率を上げ、4割のシェアを持つインドネシアにおける生産能力を質・量ともに増大させることが可能になりました。製品のモデルチェンジを行う他、新製品の生産開始も視野に入れています。

当社は、インドネシアに1970年に製品の輸出を開始し1995年に工場を建設し現地生産を始めました。

インドネシアでは、100%子会社の現地法人2社がシングルドラムの土工用振動ローラとアスファルト舗装用のタイヤローラを製造し、道路建設機械を製造する唯一のメーカーとなっています。

インドネシア現地法人2社のうち1社のサカイ・インドネシア (SI) はインドネシア国外輸出向け、もう1社のサカイ・ロード・マシナリー・インドネシア (SRMI) は、インドネシア国内向けの製品を生産しています。他に、東南アジア全域の営業サポートやアフターサービスを担当する現地法人があり3社で240人が働いています。

これまでSIとSRMIの両社は西ジャワ州ブカシ県チカランの工業団地「EJIP (東ジャカルタ工業団地)」内の少し離れた場所にあり、それぞれの工場敷地面積は1万2500㎡余りと手狭でした。そのため、新たに5万㎡の敷地を同工業団地内に購入しました。そして2つの工場を集約することにより、増産の余地が大幅に拡大したほか類似した製品を別々の場所で作っていた非効率性を改善することに成功しました。将来的には海外市場向けロードスタビライザの生産も視野に入れています。



～グローバルサービス部改修のお知らせ～

2020年3月末日まで当社グローバルサービス部の事務所及び整備工場が改修工事を行っております。お客様にはご迷惑をおかけしますが、各部署が下記の場所へ移転し業務を行っております。なにとぞご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

研修センターへ移転 (住所は変わらず)

部品室
整備室

久喜合同事務所へ移転

埼玉県久喜市高柳2626

サービス室、テクニカルサポート室
技術管理室、IDC、業務管理室

～CSPI-EXPO 出展します！～

来る2020年4月22日(水)～24日(金)の3日間、幕張メッセで、「第3回 CSPI-EXPO (Construction & Survey Productivity Improvement EXPO) ～建設・測量生産性向上展～」が開催されます。本展示会では、次世代を担う最先端技術を保有する出展社と来場者の商談を目的としており、ICT (Information & Communication Technology) 建機並びに i-Construction (ICT を建設現場に活用した建設生産システム全体の生産性向上を目指す取組) に関わる新製品・新技術・新サービスの導入や生産性向上の為の展示が行われます。

昨年開催された第2回 CSPI-EXPO では、海外6ヵ国を含む219社1,150ブースの出展に対し、3日間の来場者数合計が38,919名と盛況でした。また、第3回 CSPI-EXPO では1,300以上のブースが見込まれる事から建設施工、建設機械分野での生産性向上に対する関心の高さが伺えます。一方、国土交通省では、測量から設計、施工、維持管理までの全ての建設生産プロセスでICTを活用し、2025年度までに建設現場の生産性を20%向上する事を目標とした i-Construction の導入を進めています。この為、ICT施工の拡大、現場作業の効率化、施工時期の平準化に加えて、建設生産プロセス全体を三次元データで繋ぎ、新技術、新工法、新材料の導入と、その利活用が加速して進んでいます。

現在、建設産業ではインフラの整備・維持や災害復旧等、国民生活や社会経済を支える大きな役割を担っているにも関わらず、熟練労働者の減少や全体的な人手不足が深刻化しています。建設現場の更なる生産性・安全性の向上を実現する為、ICT導入による現場の見える化や、建設現場のIoT (Internet of Things の略で、人・物・環境の状態の見える化から集めたデータ) 化による新たな顧客サービスの提供が必要になっています。

酒井重工業もまた、本 CSPI-EXPO に出展し、生産性、安全性および締固め品質向上を推進すると共に、締固め機械の自動化についても開発を進めています。第3回 CSPI-EXPO では、品質向上を目指した転圧管理システム、安全性向上を目指した緊急ブレーキシステム、転圧施工の自動化に寄与する自律走行ローラを出展する予定です。酒井重工業は、IoT を AI (Artificial Intelligent) で分析し予知・予測に活かすまでを視野に入れ、これに基づく新たな付加価値の創造とお客様への提案することを目的としています。酒井重工業の次世代技術を体験頂く為にも、是非とも弊社展示ブースにお立ち寄り下さい。



酒井重工業ブースでのプレゼン状況



ブース全体